

第5回策定委員会及びパブリックコメント以降の対応(緑マス)

No		指摘・意見	対応方針	該当ページ
1	林委員	・P41の国分寺跡については、現行計画にも記載されていたが、今後どのように進めていくのか。	⇒実際には教育委員会で実施していくものですが、H27～H28に計画を作成しており、今年度は地元での説明会を開催しています。今後10年で公有化を進めていく予定としています。	P41
2	渡邊委員	・イチヨウ見本園の整備はよいが、アクセスが課題だと思う。	⇒イチヨウ見本園は、周辺環境についても配慮されていくものと考えていますが、所管課に問題提起します。	P34
3	渡邊委員	・イチヨウ見本園について、地域のボランティアによる運営で成り立っていくか難しいと思うので、市の力も必要だと思う。	⇒農務課からは、プロの協力を得ながら整備を進めていくと聞いていますが、所管課に問題提起します。	P34
4	嶋田委員	・生産緑地を公共空間として利用することもあり得ると思う。	⇒生産緑地は市街化区域内に点在している状況であり、営農を続けられない場合、適地であれば公共空間としての利用の可能性もあると考えています。意向調査については、今年度を予定しています。	-
5	嶋田委員	・P46の緑のまちづくり活動とはどのようなものか。 ・技術的支援とはどのようなものか。	⇒緑のまちづくり活動とは、P34の施策③にある、ライフスタイルに合わせた市民による緑づくりや、施策④にあるように市民や民間事業者、行政が協働で、緑に係わるまちづくりを推進していく活動のことを指します。 ⇒技術的支援とは、造園等のプロの方にアドバイスをいただくことを考えています。	P46
6	竹内委員長	・植木の生産をしている業者に対する支援は入るのか。	⇒市民の生活にかかわる支援を指しています。民有地緑化を促進するために、植木業者との協働を検討します。	P34
7	林委員	・都市計画マスタープランと緑のマスタープランの実現化方策を比べると、緑マスには指標が示されていない。	⇒緑地の確保目標はP29に掲げています。個別の施策に対しては、別に目標を設けて管理していきたいと考えています。ただし、P47の計画の進捗管理に、主だった指標を追記しました。	P47
8	林委員	・緑の重点地区の内容から指標を選びだしてはどうか。	⇒個別、具体の計画で指標を整理し、管理していきたいと考えています。	P47
9	千頭副委員長	・10年後の目標としてはアウトカム指標があってもよいと思う。また、緑のマスタープランは、5年後に見直しますと書けるのではないかなと思う。	⇒具体的施策について「PDCAサイクル」により進めていきますが、計画期間の中間年次、最終年度に指標の計測による評価の公表に努めるようにいたします。	P47
10	千頭副委員長	・隣の一宮市でも現在緑の基本計画を改定しているところで、市境を越えて意見交換していただけるとよい。 ・P42のイチヨウの保全・活用については、市で理念条例を作ってやれることを考えていくとよいと思う。	⇒県の広域緑地計画では、理念的な部分になり、個別具体については触れられていません。(愛知県による回答) ⇒保全策の一つとして、今後検討します。	P42
11	竹内委員長	・県で街道に関する計画はないか。	⇒県の広域緑地計画では、理念的な部分になり、個別具体については触れられていません。(愛知県による回答)	-
12	内藤委員	・休みの日に公園を観察すると実態が見えてくると思う。実際には市民が使いたい魅力ある公園に変えていってほしい。	⇒全体的に公園は老朽化してきているため、リニューアルは順次進めていきたいと考えています。その際には住民に集まっていたいて、議論いただきながら居心地のよい公園を作っていきたいと考えています。P31の施策①身近な公園・緑地の整備及び再整備に「人が集う公園となるように」を追記しました。	P31
13	-	・愛知県広域緑地計画が平成31年3月に改訂されており、P6は改訂版の内容に修正していたが、P22が更新されていない。	⇒平成31年3月に改訂された愛知県広域緑地計画に合わせて計画の理念と広域的な緑のあり方について修正しました。	P22